

令和4年度 市長と楽しく子育てトーク会

報告書



令和4年9月

はじめに

寝屋川市は、昭和35年から昭和50年の間に急激に人口が増えたことに伴い、現在は、当時の新住民がシルバー世代となられるなど、将来にわたり、持続可能な経営を行っていくためには、子育て世代を中心とした若い世代の皆様、本市を選んでいただき、人口の年齢構成のリバランスを図っていかねばなりません。



こうした課題への対応として、子育てしやすいまちづくりを進めるため、子育て世代が日常生活の中で抱えている“リアルな声”を直接お聴きし、忌憚なく意見交換を行う場として、市として初めてとなる子育て世代を対象とした「子育てトーク会」を実施しました。

トーク会に参加していただいた皆さんと、子育て支援に対する考え方や将来のビジョンについて、対話をさせていただくことで、様々な気づきや市政への御意見を頂きました。

今回のトーク会では、コロナ禍にもかかわらず、多くの方から御応募頂き、また、オンラインを含め27の方に御参加いただき、意見交換できましたこと、大変感謝しています。

引き続き、「市民の生活を守る」ことを使命として、市民に寄り添い、「住んでみたい」「住み続けたい」と感じていただけるまちづくりに向け、市政運営に取り組んでまいりますので、市民の皆さんの御理解と御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和4年9月

寝屋川市長 **広瀬慶輔**

目次

I 開催概要	1
1. 目的	2
2. 開催日程	2
3. 参加対象者	2
4. 頂いた御意見の活用	2
5. 市長からの寝屋川市の現状等の説明内容(各回冒頭)	3
II 意見交換の内容	4
第1回	5
第2回	11
第3回	16
III 参加者アンケート結果	21

I 開催概要

1 目的

市長と子育て世代の市民が直接対話することで、子育てに関する課題等を把握し、子育てしやすいまちづくりにつなげるため、子育てトーク会を実施した。

2 開催日程

日時 (令和4年)	場所	参加者数
7月12日(火)	子育てリフレッシュ館(RELATTO)	11人 ※うち、オンライン参加者3人
7月20日(水)	こどもセンター	8人
7月30日(土)	駅前図書館(キャレル)	8人

※ 開催時間は、全て午前10時30分から1時間程度

※ 当日は参加者に寝屋川市ガイドブック「寝屋川移住計画」を配布

3 参加対象者

寝屋川市在住で未就学児を持つ方、妊娠中の方

4 頂いた御意見の活用

トーク会で頂いた御意見については、庁内関係課で共有し、今後の施策・事業を進める上での参考とする。



5 市長から寝屋川市の現状等の説明内容(各回冒頭)

【人口構造について】

- ・ 寝屋川市は昭和35年から昭和50年の間に爆発的に人口が増え、当時の人口増加率は同規模の自治体の中で日本一を記録した。結果として、現在は、当時の新住民がシルバー世代となり、市の人口の年齢構成に偏りが生じてきている。
- ・ 年齢構成のリバランスを行うため、子育て世代をターゲットとした新住民の誘引につながる様々な施策・事業に取り組んでいる。
- ・ 社会動態は令和元年以降、改善傾向にあり、これまでの施策・事業の成果が増加の兆しの一因となっていると考えている。

【政策立案について】

- ・ 寝屋川市は縦6キロメートル、横4キロメートルの限られた市域であるため、大きな自治体と比較して、きめ細かな市民サービスを提供しやすい。
- ・ 一方、行政の収入源となる税金については、全国的に進む高齢化の進展もあり、今後、大幅に増える見込みは難しく、予算を使って、新たなサービスを提供していくこと、課題を解決していくには限界がある。
- ・ こういった実情を踏まえ、寝屋川市では大きな予算を掛けてサービスの向上を図るのではなく、市民に喜ばれるためにどのようなサービスが求められているのかをしっかりと考えて政策を立案している。
- ・ 例えば、学校教育の観点では、授業のやり方にひと工夫を加えることで(ディベート教育の実施)、学力は大阪府内で上位に上がってきている。
- ・ 寝屋川市ではあまり予算を掛けることなく、「政策」で他市に誇れるものを作り、市民満足の向上に取り組んでいる。その結果、いじめ対策については、ネット等を通じて本市に対する口コミが北海道まで届き、旭川市長が視察に來られた。

【今後の方向性について】

市民の皆さんが「寝屋川市に住んで良かった」と感じていただけるよう、また他市からの子育て世代の誘引につなげるため、引き続き、市民に喜んで頂けるまちづくりに全力で取り組んでいく。

Ⅱ 意見交換の内容

第1回

日 時 : 令和4年7月12日 火曜日
場 所 : 子育てリフレッシュ館(RELATTO)
参加人数 : 11人 (うち、オンライン参加者3人)

保育料について

【市民】

子どもを3人同時に保育所に預けた場合、一番下の子は保育料が無償になる。しかし、上の子が小学生に上がると、下の子の保育料を全額払わなければいけない。兄弟姉妹の年齢が離れている場合と、年齢が近い場合と、子育てにかかる費用は同じなのに、支払う保育料が違う。

【市長】

保育料の考え方については、現在そのような形になっているが、課題として受け止める。

隠れ待機児童について

【市民】

早生まれの場合、手続きが間に合わず、保育園に入りにくい。その場合、待機児童としてカウントされない。地域によって保育所の空き状況の偏りが大きいと感じる。

【市長】

以前は、兄弟姉妹で保育所が分かれることがあったが、一緒に入れるように改善できるところは随時進めている。

待機児童の定義については、国が定めており、そこにカウントされない隠れ待機児童が存在することは認識している。ここに対応するには、あらかじめ保育の余剰を作っておく必要があるため、予算が膨大となる。

予算を掛けず何か仕組みで解決できないか、内部で検討を進めており、もう少し時間がほしい。

慣らし保育について

【市民】1

市の慣らし保育の負担が2週間しかなくて、1か月に延長して欲しい。

【市民】2

私は、2週間でも長いと感じた。職場復帰の関係から、慣らし保育は1週間以内でいいと感じた。

【市長】

慣らし保育の期間を早めたい人、延ばしたい人がいるのであれば、うまく調整できるかもしれない。一度実態を確認したい。

出産に伴う補助について

【市民】

出産時や育児に必要なものをそろえるのに出費が多い。市独自に、出産や妊娠時に寝屋川市内で使えるクーポンの配布等の検討はできないか。

【市長】

安心して子育てをしていただくため、出産に関する補助を行っているが、補助の範囲等を広げていくと予算が大きくなるため、市としては、学力、いじめ対策など、多大な予算が伴わない仕組み、やり方の部分で注力している。

市全体での予算配分を考えたとき、どこに費用をかけるかしっかり検討した上で、市民に寄り添ったサービスを提供していきたい。

キャッシュレス事業について

【市民】

子育てには出費が多く、何かキャッシュレス事業等の予定はあるのか。

【市長】

今回実施する事業としては、4か月分の水道料金の基本料金の無償化、また、今後、30パーセントまでプレミアム率を乗せた商品券の発行支援を考えている。

そのほか、保育園、小学校、中学校の給食の無償化を令和4年8月から令和5年3月まで実施する。

育児休暇に対する補助について

【市民】

育児休業の取得の際、給料については雇用保険から8割出る。残りの2割分に対して、公的な補助があればいいと思う。

【市長】

市が子育て支援に力を入れているメッセージにもなり、アイデアとしては面白いが、予算等の課題がある。

ママ・パパの交流の場について

【市民】

育児中の孤独感から、育児や出産に対して否定的な考え方になりやすくなるため、ママ・パパが意見交換できる場、働きたいけど働けないママ・パパのスキルを共有できるような場があればありがたい。

【市長】

活動の拠点や活動内容にもよるが、市は既にある施設等の活動場所を提供し、そこで自由に交流して頂くなど、コストを掛けず何か提供できる仕組みを考えたい。

子育て支援施設へのアクセスについて

【市民】

子育て支援施設が香里園駅周辺からは遠くて不便

寝屋川市駅周辺だけでなく、空き家、公民館、小学校の空き部屋を利用して、もう少し小さい地域範囲で、子育てのイベント等の検討はできないか。

【市長】

香里園駅周辺は、京阪の高架事業により、今後、まちの姿が変わっていく。

地域ごとに市民サービスの均一化を図ることは重要であり、市内のどこからでも、比較的便利に利用していただくため、現在、市民サービスのターミナル化を進めている。

「行政の都合」ではなく、「市民の事情」により、施設を配置していくことが重要であることから、子どもの健診なども市駅前のできるようにしたい。

施設の集約や複合化を始め、維持管理のコストの削減、利用率の低い施設を整理しながら、将来の負担が大きくなるように、市民サービスの配置を進めていく。

情報発信について

【市民】

インターネットラジオを活用して、市の情報を発信することはできないのか。

【市長】

市民に伝えるべき情報がしっかり届くよう、現在、その仕組みを検討しており、それぞれのメディアの特性をいかしていきたいと考えている。例えば、市のメディアで一番大きいのは市広報誌だが、編集から配布するまでに 1 か月ほどのタイムラグがあり、例えば、日々変更が行われるワクチン接種の状況等を発信するには向いていない。こういった内容は即効性があるメディアで発信すべきである。

現在、市の施策などについては、ユーチューブなどを活用しながら、分かりやすく情報発信している。様々なメディアを組み合わせながら、即効性のある情報発信をしていければと考えている。

保育園のホームページについて

【市民】

新型コロナウイルス感染症に関する情報について、保育園のホームページが分かりにくく、最新情報がどれか分からない。民間園のホームページに対して市は関与できるのか。

【市長】

それぞれの民間園によってホームページの運営方針が違うため、市が関与するのは難しい側面があるが、市ホームページで各園の情報を集約することができるかもしれない。

現に、寝屋川市の小学校、中学校の感染情報は、市教育委員会のページから見ることができる。

【市民】

市のアプリから、登録している保育園に関する通知がくるようなシステムがあれば便利。

【市長】

コストというより、手間だけの話だと思う。何か工夫が必要かもしれない。

小学校区について

【市民】

小学校区によって児童数の偏りが大きいため、校区の再編、見直しについて検討することはできないか。

【市長】

小学校区については、地域ごとに自治会、地域協働議会、防災関係など、様々な事情が複雑に絡まっており、子どもの人数だけで動かすことが難しい。学校の維持管理費もあるため、市全体で考えるべき課題と考えている。

小学校の学級人数について

【市民】

35 人学級が推進されているが、更に学級人数を減らすことは検討しているのか。

【市長】

これまでは、大阪府と寝屋川市が独自で 35 人学級を進めてきたが、国の方針により、国が追い付いてきている状態。市独自で更に学年を拡充している。

一方で、クラスの人数を減らすと、クラス数が増え、先生の数が必然的に増える。人件費が掛かることもあり、全体的な視点から考えていく必要がある。

第1回参加者



第2回

日 時 : 令和 4 年 7 月 20 日 水曜日
場 所 : こどもセンター
参加人数 : 8人

情報発信について

【市民】

寝屋川市の子育て環境や子育て支援は、他の自治体に比べて優れていると感じるが、それを伝えるための市 SNS について、ハッシュタグなどが無く、市の優れている部分が市内外に伝わっていないのではないかと。

子育て世代のアカウントを作るなど、子育てや教育に力を入れていることをもっとアピールしてはどうか。

【市長】

近年、寝屋川市のことがメディアに取り上げられることが多くなり、広告費換算による効果額は約 3 億円と大きい。情報発信のやり方を 1 つずつ変えているが、特にホームページに関しては、改善の余地がある。

特に、子育て世代の人は SNS に馴染みがあると思うので、SNS での情報発信については改善を進めていきたい。

子育て情報について

【市民】

一番、子育てが大変な時期に「つどいの広場」の存在を知っておきたかった。

つどいの広場自体は SNS 等で情報発信しているが、積極的な情報発信がないと感じた。

例えば、出生届の手続き時など、様々な機会での市のサービスやイベントを発信してほしい。

【市長】

情報発信に当たっては、様々な媒体を通じて発信するとともに、情報をばらばらに列挙するのではなく、情報の載せ方、並べ方もストーリー性をもって掲載・発信してい

きたい。

また、初めて育児をした方の意見は貴重だが、これがほかの方たちに共有されていないことが多く、様々な情報を収集・共有できる場が必要と考える。子育て中の人々が自由につながれる場、いろいろな人と交流する場として、行政が場所や仕組みを提供するなど、何かできないか考えていきたい。

保育料について

【市民】

子どもを3人同時に保育所に預けた場合、一番下の子は保育料が無償になる。しかし、上の子が小学生に上がると、下の子の保育料を全額払わなければいけない。兄弟姉妹の年齢が離れている場合と、年齢が近い場合と、子育てにかかる費用は同じなのに、支払う保育料が違う。

【市長】

保育料の考え方については、現在そのような形になっているが、課題として受け止める。

助産師訪問等のアウトリーチについて

【市民】

アウトリーチ(居宅訪問 MYCITY 助産師が自宅に訪問し、家庭の状況に合わせて育児をサポートする制度)を利用しようとしたが、担当課に直接行かないと申込みができないため、ネット予約ができるようにしてほしい。

また、利用するまでに1週間掛かり、その間に子育ての悩みが解決してしまった。申込みから利用開始までの期間を短くしてほしい。

【市長】

助産師によるアウトリーチ型の事業は、まだ開始したばかりで運用が整っていない可能性がある。しっかりと進めていくようにする。

「市民の事情>行政の都合」の観点から、現在、手続きのオンライン化を全庁的に進めている。

産後ケアについて

【市民】

産後、体がしんどく、接骨院に行きたいが費用が高く行きにくい。接骨院のチケット、エステ券の配布など、出産後の身体的ケアに対する支援があればいいと思う。

産後ケアはどのようなものがあるのか教えてほしい。

【市長】

現在、実施している事業としては、お母さんのしんどいを解決できる制度。これは、助産師や保健師がお母さんにリフレッシュが必要と判断したとき、リフレッシュカードを渡し、子どもの一時預かりができるもの。

出産後のお母さんの身体的ケアについても大事であるため、約束はできないが、頭にしっかり入れておく。

商業施設におけるキッズスペースの設置等について

【市民】

直接、行政とは関係ないかもしれないが、市駅前のイズミヤにおいて、赤ちゃんグッズ、子ども服等の販売を充実してほしい。また、屋上を活用して、小さな遊園地やキッズスペースを作ってはどうか。

【市長】

イズミヤの集客率は、中央図書館開設により増加したと聞いており、子育て世代を対象にすると更に集客が見込めることも考えられる。

イズミヤの屋上については、アドバンス寝屋川とも相談しており、スポーツができる場所など、時間に区切って何かできないか検討を進めている。

難しいこともあるが、市ができる範囲で施設の機能は充実させていきたい。

緑町のイオンの跡地について

【市民】

緑町のイオンの跡地は何になるのか。

【市長】

緑町のイオンの跡地については、同じイオングループにおいて、従来と比較して小さい商業施設に変わると聞いている。令和4年度内に取り壊しを行うため、開業にはまだ1、2年は掛かるのではないかと聞いている。

公園について

【市民】

公園に、お菓子のごみが放置されていたり、ブランコへのいたずらがあったりする。

例えば、小学生と区別した小さい子どもが遊べるスペースや遊具の設置は検討できないか。

【市長】

既存の公園は子どもからシルバー世代まで、誰にでも対応できるように作られているため、各世代の満足感が十分かと言えばそうでないかもしれない。

例えば、小さな公園を役割分担し、シルバー世代向けの公園、ボール遊びができる公園など、各ターゲットに満足される公園を作っていくことや、時間帯での区分など、限られた土地を有効活用することで、全体の満足感が増すと考えている。

公園の在り方については、色々考えており、検討を始めている。

学校について

【市民】

寝屋川市は学力も上がっていて、先生もよいと聞く。市として、先生への対応は何か行っているのか。

【市長】

いじめに関しては、学校がいじめを判断するのはハードルが高く難しいため、いじめ対応に強い監察課が解決する仕組みになっている。これにより、先生は授業に集中することができ、先生の働き方改革にもつながっている。

また、部活に関しては、1つの部活を複数の学校が一緒に行うようにし、未経験の先生が教えるのではなく、外部のコーチが教えるという手法も、一部取り入れている。学校の体制については随時良くなっていると考えている。

働きやすい環境づくりについて

【市民】

仕事と保育園を同時に探すのが難しい。託児所付きの会社や、子どもが熱を出したとき、気負いせず休めるなど、お母さんが働きやすい環境があると嬉しい。

【市長】

仕事を始めてから保育所を探すとなると、お母さんの負担が大きく、そういう環境は必要だと思う。

例えば、寝屋川市では保育所に入りやすいよう、様々な取組を進めているが、隠れ待機児童をなくすためには、保育の定員を確保する必要があり、予算が膨大となる。

他市では、保育園を無償化しても待機児童が多いケースがある。無償化によって転入者が増える一方、転入者が増えるあまり、既存住民から待機児童が増えるリスクもあるため、これらのバランスを考える必要がある。

全国的にも難しい課題へのアプローチを、寝屋川市から進めていくことはいいことだと思うので頭に入れておく。

第2回参加者



第3回

日 時 : 令和4年7月30日 土曜日
場 所 : 駅前図書館(キャレル)
参加人数 : 8人

子育て支援について

【市民】

他市では、子育て経験がある方が定期的にオムツを自宅まで届け、子育ての見守りや相談も兼ねているサービスがある。

県外から引っ越してきたので、子育てに関して相談する人がいなく、定期的に家に来てくれる人がいるとありがたい。

また、他県で実施しているベビー用品の割引や、レジャー施設の割引があれば、外に出る機会、子育ての息抜きにもなると思う。

【市長】

提案内容を実現させるためには、予算の問題がある。

人口増加局面にある市であれば、若い方は介護保険等と比較するとあまりサービスを使わないため、予算が浮いた分を別の子育てサービスに還元できる。しかし、寝屋川市は人口減少局面にあるため、若い子育て世代に十分に還元するだけの税収がなく、子育ての相談や見守りとしては、MY CITY 助産師の訪問指導等のアウトリーチを進めている。

また、交流の場として、例えば、行政が積極的に介入せず、お母さん方が自由に使えて、友達づくりのきっかけとなるような場所の提供はできるかもしれない。「関東地方出身のお母さん話しませんか。」などの集まりをお母さん方で声掛けし、そこに助産師や保健師が入るようなイベント等ができればいいかもしれない。

子育て世代の息抜きの場について

【市民】

夫は休みが取れず、ほとんど1人で育児をしている。県外から引っ越して来て、頼れる人がいないので、どこか頼れるところがあればと考えている。

【市長】

RELATTO 等の一時保育があるが、多胎児がいらっしゃる家庭に合うリフレッシュなど、いろいろな事情をカバーできるよう、息抜きの場や相談の場の提供を進めている。

親にとって、一時保育などをルーティーン化することが楽だと思うので、行政が息抜きできる場を提供できればと思う。

子どもの遊び場について

【市民】

東香里園町の付近は、公園が少なく、夕方は小学生が遊ぶ場所になるため、小さい子どもが遊べる場所が少ない。

RELATTO のような立派な施設でなくていいので、空き家などを使い、寄附されたおもちゃ等を集めて遊べる場所を、狭い地域範囲で作ることはできないか。

【市長】

香里園駅周辺については、今後、京阪沿線高架下を整理し、まちの姿が変わろうとしており、あわせて、保育園など既存の施設を上手に活用することも考えていきたい。

【市民】

他市では2階でお母さんが習い事ができて、1階で一時預かりができる場所がある。寝屋川市でも同様のサービスを検討できないか。

【市長】

寝屋川市でもボランティアで一時預かりを実施しているところはあるが、今後の施策のアイデアとして頭に入れておく。

男性参加の子育て交流会について

【市民】

妻と一緒に子育て交流会に行くが、男性が少ないため、お父さんの子育て交流会の回数を増やしてほしい。そのような場が増えれば、お父さんが子どもの成長を知る場、自身の育児の課題の発見にもつながるのではないか。

【市長】

そういった取組をより充実していくことは大事と考える。

イベントの実施について

【市民】

コロナ禍で学校のイベントがないので困っている。

【市長】

今後、感染状況を見極めながら様々なイベントを再開していくことになる。学校も基本的にはイベントや行事をできるようにしているが、必ずしもコロナ禍前のように制限なく行事を実施していくことは難しいかもしれない。

子育てイベントの開催回数について

【市民】

RELATTO の遊び場、講座等の予約がすぐ埋まり、行きたいときに行けない。離乳食のイベント等の回数を増やしてほしい。

【市長】

コロナ禍で人数制限を設けているため、予約がすぐに埋まってしまう。需要があるのは認識しているので、感染状況を見極める中で、回数を増やす等の検討を進めていきたい。

学校給食(牛乳)について

【市民】

学校給食に関して何か検討されていることはあるか。

【市長】

寝屋川市の学校給食は、他市から視察に来られるほど、アレルギー食の対応は非常に丁寧に行っているが、中学校給食については、いまだに「おいしくない」と言われることがある。

今後、小学校の給食調理場を改修して、小学校で作った給食を中学校に届けることを予定している。

また、物価高騰に伴い、食材費が上がっているため、メニューの在り方を含めて、より良い給食に向けた検討を行っている。

【市民】

牛乳を子どもに飲ませたくないが、そうするには医師の診断が必要になるため、牛乳を選択式にしてほしい。

【市長】

牛乳については、専門家によって様々な意見があるため、無くすのは難しいが、より良い給食にするという考えをもって見直す対象ではあると思う。

新住民の受け皿(住む場所の確保)について

【市民】

子育て世代に力を入れ、誘引しているのは分かるが、マンション等の受け皿はあるのか。

【市長】

転入者を増やすためにはハードとソフトの要素が必要である。

ハードの対策として、学研都市沿線の開発を進めている。学研都市沿線に子育て世代を増やし、ここで得た税金をもって、既存住民が多い京阪沿線を支えとともに、将来の年齢構成のバランスを取ろうと考えている。逆に、学研都市沿線が高齢化した時は、京阪沿線に若い世代を呼び込むことで、税金を補えると考えている。(2軸化構想)

寝屋川公園近くにも開発可能な場所が残っている。

そのほか、市の公共施設やサービスを集約させるターミナル化構想や、寝屋川公園駅周辺に小中一貫校の建設、空き家を流動し、活用していくことも考えている。

第3回参加者



III 参加者アンケート結果

Q1. 今回のイベントについてどこで知りましたか。(複数回答可)

設問	件数	割合
市広報誌・地域情報誌を見て	12 件	38.7%
公共施設にあるチラシを見て	8 件	25.8%
保育園で配布されたチラシを見て	3 件	9.7%
Twitter を見て	3 件	9.7%
家族・友人・知人から聞いて	2 件	6.4%
市ホームページを見て	0 件	0.0%
その他	3 件	9.7%
合計	31 件	100.0%

※その他(こどもセンターからの情報提供)

Q2. 市長との意見交換について。(どれか一つ)

設問	人数	割合
とても満足	20 人	77.0%
やや満足	4 人	15.4%
満足	1 人	3.8%
やや不満足	1 人	3.8%
不満足	0 人	0.0%
合計	26 人	100.0%

Q3. 1時間というトーク会の時間について。(どれか一つ)

設問	人数	割合
長すぎる	0人	0.0%
少し長い	2人	7.7%
ちょうど良い	19人	73.1%
少し短い	5人	19.2%
短すぎる	0人	0.0%
合計	26人	100.0%

Q4. トーク会の開催曜日と開催時間帯は、次のどれが良いですか。

平日、土、日祝でそれぞれ午前中(10時～12時)、午後(13時～16時)、夕方(16時～18時)、夜(18時～20時)の中から選択

設問	人数	割合
平日午前	11人	42.3%
土曜日午前	7人	26.9%
日曜日・祝午前	5人	19.2%
平日午後	3人	11.6%
合計	26人	100.0%

Q5. 今回のトーク会に参加して良かったと思いますか。(どれか一つ)

設問	人数	割合
とても良かった	19人	73.1%
良かった	6人	23.1%
ふつう	1人	3.8%
あまり良くなかった	0人	0.0%
良くなかった	0人	0.0%
合計	26人	100.0%

Q6. 次回のトーク会にも参加したいと思いますか。(どれか一つ)

設問	人数	割合
ぜひ参加したい	19人	73.1%
都合がつけば参加したい	6人	23.1%
あまり参加したくない	1人	3.8%
もう参加したくない	0人	0.0%
合計	26人	100.0%

Q7. 普段から市内子育て施設の利用、市主催の子育てに関する交流会等のイベントへ参加されていますか。(どれか一つ)

設問	人数	割合
よく利用・参加している	11人	42.3%
利用・参加している	7人	26.9%
あまり利用・参加してない	6人	23.1%
利用・参加していない	2人	7.7%
合計	26人	100.0%

Q8. 寝屋川市の子育て施策・サービスに満足されていますか。(どれか一つ)

設問	人数	割合
とても満足	15人	57.7%
やや満足	7人	26.9%
満足	2人	7.7%
やや不満足	2人	7.7%
不満足	0人	0.0%
合計	26人	100.0%

令和4年度 市長と楽しく子育てトーク会 報告書(令和4年9月)

寝屋川市 経営企画部 企画二課

〒572-8555 大阪府寝屋川市本町1番1号

TEL 072-825-2019(直通)

FAX 072-825-0761

URL <http://www.city.neyagawa.osaka.jp>

E-mail kikaku02@city.neyagawa.osaka.jp